

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 4 日現在

機関番号：14201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720211

研究課題名(和文) パプアニューギニアのマダン州で話される言語における時制と時間表現

研究課題名(英文) Tense forms and temporal expressions in the languages of Madang Province, Papua New Guinea

研究代表者

野瀬 昌彦 (NOSE, Masahiko)

滋賀大学・経済学部・准教授

研究者番号：20508973

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：パプアニューギニアのマダン州で話されるニューギニア系言語とオーストロネシア系言語，さらにクレオールのトクピシンを調査対象として，記述文法をもとにした文献調査と，現地で聞き取りを実施するフィールドワークの調査両方を実施した．調査の結果，アમેレ語では，1980年代に出版された記述文法書の記録とは異なる用法が観察された．時制形が衰退しており，現在であっても過去であってもひとつの形式しか使用しないことが判明した．ベル語では，時間表現に関してトクピシンの語彙が観察されるとともに，アમેレ語とも共通部分が存在することが判明し，50年以上前の宣教師が書いたベル語の文法書とは，大きく異なっていることが判明した．

研究成果の概要(英文)：This study investigated the languages spoken in Madang Province, Papua New Guinea. Their languages are mainly classified in Trans-New Guinea language group (such as Amele, Kobon, Siroi, Waskia, etc.) and Austronesian language group (such as Bel, Manam, Takia, etc.), and in addition, an English-base creole, Tok Pisin. This study was a combination of examining the descriptive grammars and the fieldwork, and the following points are found. Amele, one of Trans New Guinea language, it has more simplified tense forms, compared with the descriptive grammar published in 1987. In contrast, Bel, one of Austronesian languages, it has more complicated (quasi-)tense forms and Bel borrowed many temporal words from those of Tok Pisin. They are also different from the description of the missionary more than 50 years ago.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：パプアニューギニア 時間表現 時制 アમેレ語 ベル語 トクピシン

1. 研究開始当初の背景

(1) パプアニューギニアのマダン州には現地語が 200 弱あり、それらの多くが未記述であったり、その文法記述が 20 年以上昔のものであったりする。それらの言語は大きく分類すると 2 種類あり、ニューギニア系とオーストロネシア系に分類される。それらの言語は、時制形をほとんど有さない言語と複雑な時制系システムを持つ言語の両方が存在する。

(2) 研究代表者は 2005 年よりパプアニューギニアを訪問し、とりわけニューギニア系の現地語であるアメレ語のフィールド調査を実施してきた。その際、隣接のベル語やシロイ語、タキア語やワスキア語の話者と接触する機会があった。そのため、なるべく多くの言語のデータを通して、マダン州地域の言語の、特に時制と時間表現を記述、考察することを試みた。加えて、パプアニューギニアの公用語のひとつであるトクピシンも調査対象に入れることにした。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、パプアニューギニアのマダン州で話される言語（ニューギニア系、オーストロネシア系、クレオールであるトクピシン）を 10 言語選択し、それらの時制表現と時間表現を調査する。動詞が関与する時制と、名詞・副詞等が関与する時間表現の文法に注目する。最後に、各言語が「時間を文法的にどのように捉えているか」を探ることである。

(2) 「時制」という文法現象に注目し、時制表現が豊富なニューギニア系の言語の調査を実施し、その種類と機能を明らかにする。同時に、アスペクトが豊かで、時制の形式が貧弱なオーストロネシア系、トクピシンのデータを検証し、時制の機能を欠く理由を機能的な点から説明を加える。加えて、「朝に」、「月曜日に」、「1 週間前から」等の文法形式が関与する時間表現、または語彙形式に関し、30 余りの表現を包括的に調査する。それらが空間的な意味を持つ用法から来るものなのか、純粋に時間的な用法なのか、それとも語彙的な用法、借用なのかを整理し、データベースを作成する。言語の文法において、時間がどのように文法の中に取り込まれているかを明らかにする。

3. 研究の方法

(1)

すでに出版されている言語の記述文法書 (Kobon; Davies 1989, Manam; Lichtenberk 1983, Tauya; MacDonald 1990, Usan; Reesink 1987, Amele; Roberts 1987, Waskia; Ross

1978) を参照し、時制と 30 項目の時間表現 (15 時に・朝から、夜明けまで等) を調査し、データベースを作成する。なお、調査言語においては「新約聖書」が入手可能な言語については、新約聖書のデータを利用する。

(2)

記述はなされているが文法記述が十分でない言語 (トクピシン、タキア語、ベル語等) について、パプアニューギニアにてフィールド調査を実施する。あらかじめ、「質問票」を作成し、それに対して現地語話者にインタビューする形式で行う。最終的に、調査結果を総括し、文法における時間の取り扱いに関するデータベースを完成させる。そのデータベースを使用し、マダン州にある言語の共通の特徴や珍しい特徴を抽出し、それらに対して説明を加える。

4. 研究成果

(1)

パプアニューギニアのマダン州で話される言語における時制形と時間表現に関して、記述文法を使用した文献調査と、現地で聞き取りを実施したフィールド調査の両方を実施した。その結果、時制形では、形式が複雑化に向かう方向と簡素化に向かう方向を発見し、時間表現では西洋基盤の時間表現で、英語語彙がトクピシンを経由して入っていることが判明した。

(2)

まず、ニューギニア系言語の成果であるが、アメレ語を中心に、コボン語、ワスキア語、シロイ語のデータを得た。これらの言語には、今日の過去形、昨日の過去形、それ以前の離れた過去形のように、形式的に豊富な時制形が存在することが判明した。「朝」「明日」などの時間表現についても、何らかの表現を持つ一方で、「12 時に」「火曜日」などの西洋文化基盤の時間語彙は英語語彙を借用することがわかった。ただし、伝統的な時間語彙の一部はオーストロネシア系言語から借用したと思われる例を発見した。

(3)

次に、オーストロネシア系言語の成果であるが、アメレ語に隣接するベル語の調査を現地で実施することができた。加えて、タキア語、マナム語のデータを文献から参照した。これらの言語は、動詞に付加する時制形は存在しないのが基本だが、ベル語においては形式手には時制形ではないと考えられるが、時制形に近い形式を持つことが判明した。これらの言語でも、西洋文化基盤の時間語彙を英語語彙で借用することを確認した。

(4)

パプアニューギニアのマダン州では、公用

語のひとつであるクレオール言語のトクピシンが事実上の共通言語になっている。トクピシンは英語ベースのクレオール言語で、これらの語彙の多くが英語由来である。これらの英語由来の時間語彙が、ニューギニア系言語とオーストロネシア系言語の両方に借用されていることが判明した。つまり、英語の時間語彙がパプアニューギニアの共通言語であるトクピシンを介して、現地語に浸透したわけである。トクピシンの時制形、時間表現についても調査した結果、過去と未来の時制形を持ち、前置詞を使用する多様な時間表現を持つことが判明した。ただし、本研究ではアスペクトに関する詳細な調査は実施していない。

(5)

全体的なまとめとして、時制形については、記述文法ではとりわけ過去形の用法が、今日の過去、昨日の過去、離れた過去と豊富な形態的過去時制を有していると記されていた。しかし、調査の結果、時制形が衰退しており、現在であっても過去であってもひとつの形式しか使用しないことが判明した。この衰退に関しては、方言的相違なのか、言語変化によるものかを今後も慎重に観察する必要がある。

(6)

時間表現については、伝統的な生活に根差す伝統的時間語彙と西洋文化基盤の現代時間語彙に二分できる。伝統的な時間語彙については、各言語で発達させたものが多い一方で、オーストロネシア系言語の表現が、ニューギニア系言語に借用されたものもある。「時間」の概念自体、ニューギニア系言語には希薄のものだったようで、記述文法でも「時間」という語が見当たらない言語もあった。アમેレ語のように、接触に基づく文法化の結果、「時間」の意味を持つ形式“sain”が、時の接続詞として使用される例があった。しかし、他のニューギニア系言語では、このような例は観察されなかった。

(7)

最後に、時制形は、以前は複雑だったものが、その複雑性を喪失し、簡素化している過程であることが観察された。時間語彙については、西洋文化に基づく時間語彙はトクピシンを媒介にして、英語語彙を使用することが判明した。伝統的な時間語彙についても、ニューギニアの伝統社会を反映するような時間体系が存在するというようなデータは得られなかった。本研究では、アスペクトに関しては調査していないので、時制と合わせてアスペクトの振る舞いを今後の課題とする。また 2010 年以降のマダン州の治安悪化のため、予定していたフィールド調査が十分にできなかった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

- ① 野瀬昌彦, 時制と時間表現に関する対照研究: 日本語とパプアニューギニアのアમેレ語”, 社会言語科学会第 27 回大会発表論文集, 2011, 264-267 (2011), 査読無
- ② Nose Masahiko, Objectives of Contrastive Linguistics: In Parallel with Foreign Language Teaching, 麗澤学際ジャーナル 19 巻 2 号, 2011, 103-112, 査読無, <http://id.nii.ac.jp/1046/00000173/>
- ③ 野瀬昌彦, パプアニューギニア, マダンの町の多言語状態: 社会言語学的観点から, 東北大学言語学論集 20 号, 2011, 15-24, 査読無
- ④ Nose Masahiko, Reduplication in Tok Pisin -Forms, Functions and Uses-, アジア・アフリカの言語と言語学 6 号, 2011, 61-70, 査読有 <http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/69374>
- ⑤ Nose Masahiko, A small typology of applicative constructions and a case study in Papua New Guinea: by using the World Atlas of Language Structures, Nakamura Wataru, and Ritsuko Kikusawa (eds.). Objectivization and Subjectivization: A typology of Voice systems (Senri Ethnological Studies) 77, 2012, 97-111, 査読有
- ⑥ 野瀬昌彦, 時間表現に関する対照言語学的研究: 日本語と英語, ハンガリー語, トクピシン, 野瀬昌彦 (編)『日本語と X 語の対照一言語を対照することでわかること—対照言語学若手の会シンポジウム 2010 発表論文集』, 2011, 164-173, 査読無
- ⑦ Nose Masahiko, Omission of object verbal markers in Amele: difference in data between Haia and Huar dialects, Proceedings of the International Workshop on 'Special Genres' in and around Indonesia, 2013, 143-147, 査読無, <http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/75523>
- ⑧ Nose Masahiko, Information structure in Amele, Papua New Guinea, Proceedings of the International Workshop on Information Structure of Austronesian Languages, 2014, 105-112 査読無, <http://repository.tufs.ac.jp/handle/>

10108/75988

- ⑨ Nose Masahiko, Advantages of using parallel texts in describing the languages of Papua New Guinea, Proceedings of the 12th International Language, Literature and Stylistics Symposium 2014, 721-724, 査読無

[学会発表] (計 9件)

- ① Nose Masahiko, Grammaticalization of temporal expressions in Amele: a diachronic account, The 20th International Conference of Historical Linguistics, 国立民族学博物館, (2011年7月25日)
- ② Nose Masahiko, Tense and temporal expressions in Papua New Guinea: a contrastive study” Workshop on the Representation of Time in Asian Languages, Academia Sinica, 台湾, (2011年10月26日).
- ③ 野瀬昌彦, 「アમેレ語の時制と時間表現」東京外大アジアアフリカ研の研究プロジェクト「インドネシア諸言語の記述的研究」研究会, アジアアフリカ言語文化研究所, (2012年5月19日)
- ④ Nose Masahiko, Advantages of using parallel texts in describing the languages of Papua New Guinea. 12th International Language, Literature and Stylistics Symposium, トラキア大学, トルコ (2012年10月18日)
- ⑤ Nose Masahiko, Omission of object verbal markers in Amele: difference in data between Haia and Huar dialects, International Workshop on 'Special Genres' in and around Indonesia, アジアアフリカ言語文化研究所 (2013年2月17日)
- ⑥ Nose Masahiko, Information structure in Amele, Papua New Guinea, First International workshop of the project 'Cross-linguistics perspectives on the Information Structure in Austronesian languages', アジアアフリカ言語文化研究所, (2013年12月13日)
- ⑦ 野瀬昌彦, パプアニューギニアのアમેレ語の他動性, ポスター発表. NINJAL Typology Festa 2014, 国立国語研究所 (2014年2月22日)
- ⑧ 野瀬昌彦, パプアニューギニアのアમેレ語は「時間」をどう使用するのか, 第33回社会言語科学会, 神田外語大学, (2014年3月15日)
- ⑨ Nose Masahiko Creating the written language from the spoken by translation: a study in Papua New Guinea, III. International Symposium

on Asian Languages and Literatures,
カイセリ大学, トルコ (2014年5月8日)

[図書] (計 2件)

野瀬昌彦 (編集): “日本語と X 語の対照—言語を対照することでわかること—対照言語学若手の会シンポジウム 2010 発表論文集” 三恵社. 183 ページ (2011)

野瀬昌彦, 笹原健 (編集) 日本語と X 語の対照 2-外国語の眼鏡をとおして見る日本語— 三恵社. 120 ページ (2013)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

Amele: a language of Papua New Guinea
<http://contrastiveling.pbworks.com/w/page/26060802/Amele>

6. 研究組織

(1) 研究代表者
野瀬 昌彦 (NOSE, Masahiko)
滋賀大学・経済学部・准教授
研究者番号: 20508973

(2) 研究分担者 なし
()
研究者番号:

(3) 連携研究者 なし
()
研究者番号: